

**衆議院安全保障委員会外務委員会
北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会
連合審査会ニュース**

【第210回国会】令和4年10月13日（木）、第1回の連合審査会が開かれました。

1 国の安全保障に関する件（北朝鮮による弾道ミサイル発射等に関する件）

- ・北朝鮮による弾道ミサイル発射等に関する件について、浜田防衛大臣及び林外務大臣から報告を聴取しました。
 - ・林外務大臣、浜田防衛大臣、木原内閣官房副長官、和田内閣府副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。
- （質疑者）小田原潔君（自民）、浜地雅一君（公明）、玄葉光一郎君（立憲）、徳永久志君（立憲）、三木圭恵君（維新）、美延映夫君（維新）、鈴木敦君（国民）、穀田恵二君（共産）

（質疑者及び主な質疑事項）

小田原潔君（自民）

北朝鮮による弾道ミサイル発射事案について

- ア 現在の我が国のミサイル迎撃体制及び防衛費増額についての浜田防衛大臣の認識
- イ 正面装備のほか老朽化対策も含めた自衛隊の施設整備の必要性
- ウ 対話意思のない北朝鮮を抑制させるための国連等との協力も含めた我が国の外交努力についての林外務大臣の見解

浜地雅一君（公明）

（1）北朝鮮による弾道ミサイル発射

- ア 変則軌道型弾道ミサイルに対する捕捉・追尾能力を強化する必要性についての浜田防衛大臣の見解
- イ 日米韓共同訓練の練度の向上及び規模の拡大等が北朝鮮に圧力をかけることになるとの考えに対する浜田防衛大臣の見解

（2）北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の重要性及び老朽化した放送施設に対する政府の支援についての内閣府の見解

玄葉光一郎君（立憲）

（1）北朝鮮の核・ミサイル開発の状況

- ア 北朝鮮が既に我が国を核攻撃する能力を有しているとの認識についての浜田防衛大臣の評価
- イ 低出力戦術核の開発によって北朝鮮の核兵器使用のハードルが下がるのではないかとこの見方に対する浜田防衛大臣の見解
- ウ 北朝鮮が事実上核兵器を保有したことにより、これまでの外交努力や非核化プロセスが失敗に終わったという評価についての林外務大臣の見解
- エ 北朝鮮の非核化を目指すという政府の姿勢の変更の有無
- オ 中国との貿易が北朝鮮の命綱になっていることを踏まえ、経済制裁のたがを締め直すための外交を展開する必要性に対する林外務大臣の見解
- カ ロシアによるウクライナ侵略を踏まえ、北朝鮮問題について中国と対話する必要性についての林外務大臣の見解

（2）北朝鮮のミサイルへの対応

- ア 極超音速滑空兵器（HGV）やミサイルの一斉発射に対する我が国の防空システムの迎撃能力の有無
- イ 我が国の防空システムには一定の限界があるとの認識の有無
- ウ 原子力発電所に向けたミサイル攻撃に対する迎撃の確実性についての浜田防衛大臣の認識
- エ 原子力発電所が狙われるリスクが高まっていることを踏まえ、現在のPAC-3部隊の配置を再検討する必要性についての浜田防衛大臣の見解
- オ 原子力発電所の所在する地域で国民保護法に基づく訓練を行う必要性についての木原内閣官房副長官の見解
- カ 南西諸島など原子力発電所が所在する地域以外でも、政府の責任において地方公共団体と連携して国民保護法に基づく訓練を行う必要性についての木原内閣官房副長官の見解
- (3) 北朝鮮のサイバー攻撃能力についての政府の評価
- (4) 「先制攻撃」と攻撃を防ぐための「第一撃」の違いについての浜田防衛大臣の見解

徳永久志君（立憲）

- (1) 北朝鮮による弾道ミサイル発射事案について
 - ア ミサイル発射直後の外務省の対応及び北朝鮮に対し「嚴重に抗議」の具体的内容
 - イ 我が国の「上空を通過する形でミサイルを発射」することの違法性
 - ウ 北朝鮮が発射した弾道ミサイルの破壊措置を実行しなかった理由
 - エ 北朝鮮に対し強い表現で我が国の意思を示す必要性
- (2) 北朝鮮に対する制裁措置
 - ア 資産凍結等の措置のうち我が国独自の措置対象となっている団体・個人数の状況
 - イ 在外公館的と自ら説明する朝鮮総連を資産凍結の対象とするとのメッセージを北朝鮮に発する必要性
- (3) 拉致問題について
 - ア 尹韓国新政権の拉致問題への姿勢に対する評価
 - イ 北朝鮮の調査報告に拉致被害者等の生存情報が含まれていたが受け取らなかったという齋木元外務事務次官の発言記事（9.17朝日デジタル）に対する外務大臣の見解

三木圭恵君（維新）

- (1) 中国や北朝鮮が想定している日本上空での戦術核の爆発による電磁パルス攻撃への対策の進捗状況
- (2) 我が国が核の脅威にどう対処すべきかをタブー視せずに積極的に議論する必要性に対する浜田防衛大臣の見解
- (3) 防衛費増額に当たりNATO基準で対GDP2%以上を目指す意義
- (4) NATO基準を参考にした我が国の安全保障関連経費の算出のために、海上保安庁や文部科学省など他省庁からの予算を付け替えるのではなく、必要な防衛費を防衛省予算として計上する必要性に対する浜田防衛大臣の見解
- (5) 防衛3文書に海上自衛隊と海上保安庁の連携を盛り込む必要性に対する浜田防衛大臣の見解

美延映夫君（維新）

特定失踪者問題調査会による北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」関係

- ア 短波放送の縮小による割当周波数の他国への流出及び放送技術の喪失についての総務省の見解
- イ KDDI八俣送信所の送信機の老朽化問題及び同送信所の運営・管理並びに短波放送の重要性に対する内閣府及び総務省の見解

鈴木敦君（国民）

- (1) 短波放送が世界的に縮小傾向にある中、「しおかぜ」を含む短波放送を外交ツールとして活用していく必要性についての林外務大臣の見解
- (2) 弾道ミサイル関係
 - ア 我が国における「宇宙空間」の定義
 - イ 弾道ミサイルを宇宙空間で破壊した場合に生じる破片の処理方法
 - ウ 中国が弾道ミサイルを日本の排他的経済水域（E E Z）に弾着させた際に、国家安全保障会議（N S C）を開催しなかった理由
- (3) 我が国におけるセキュリティクリアランスを法整備する必要性についての林外務大臣及び浜田防衛大臣の見解

穀田恵二君（共産）

- (1) 旧統一教会が反社会的団体であるとの認識についての林外務大臣の見解
- (2) 軍事的挑発を続ける北朝鮮に対し国際社会が協調して外交対応を強化していく必要性についての林外務大臣の見解
- (3) 政府が検討している「反撃能力」について
 - ア 防衛省本省に置かれる「中央指揮システム」の機能の概要
 - イ 政府の判断により相手国の軍司令部や政府中枢が反撃能力の攻撃対象となる可能性
 - ウ 反撃能力の対象に「相手国の指揮統制機能」を含めることは相手国を刺激しむしろ有害であるとの石破及び岩屋両元防衛大臣の見解についての浜田防衛大臣の所感
 - エ 反撃能力の対象に「相手国の指揮統制機能」を含めることは敵国を全面攻撃するに等しく専守防衛と相反するとの見解についての浜田防衛大臣の所感